

地域交流始動



地域に根差す生徒会



加治木高校生徒会新聞



第4号
2022.11.15.(火)
制作
下村将太郎
発行
第75代生徒会

※始良市ジュニア・リーダークラブ どんぐり
始良市内の中・高校生二十三名で構成され、体験活動や地域活動、市行事への協力などを中心に活動する。(随時会員募集中)

十月一日、生徒会と「始良市ジュニア・リーダークラブ どんぐり」の協働事業として、加治木中学校・重富中学校・帖佐中学校の中学生を対象に地域交流イベントを開催しました。第七十五代生徒会の活動の柱のひとつである地域交流の本格始動です。
同イベントは、十一月十三日には第二回を終え、今後も毎月一回を目安に開催します。また、生徒会では、これからもいくつかの地域交流活動を企画・開催し、皆さんが様々な興味関心に触れることができる場をつくっていきます。

- 一、地域に根差す生徒会
- 二、募金活動のお知らせ
- 三、共通テストカウントダウン
- 四、言の葉
- 五、好きになっちゃう放課後
- 六、二百字の本棚
- 七、LOGICAL
- 八、編集後記。



大学入学共通テストまで
あと **060** 日

募金活動のお知らせ

加治木高校では、先週月曜日から今週金曜日までの二週間、「赤い羽根共同募金」と「あしなが学生募金」を行っています。皆さんのご協力をよろしく願っています。

- 赤い羽根共同募金■
地域福祉の課題解決に取り組む民間団体の活動を応援する
- あしなが学生募金■
遺児支援の募金活動で、募金は「あしなが育英会」に寄付



前を向くのよ。足が震えて前に進めないでしょ、それでもいいのよ。
今は進まなくていいのよ。それよりもまず、前を向くの。それから始めるのよ。
——リトルミイ(『ムーミン』より)

哲学が 好きになっちゃおう 放課後

毎号一人の先生が「好き」

なテーマを語る、『好きになっちゃおう放課後』。第二回の記事は、大学時代に哲学を専攻していたという立和名教頭先生に執筆していただきました。

それでは、読めば哲学が好きになっちゃおう放課後の始まりです！

▼▼高校時代、「倫理」という科目がとて好きだった。高校生だからこそ、真善美を追求する先哲の姿に憧れを抱き、「無知の知」や「弁証論」といった専門用語を通して、未知なるものの見方・感じ方・考え方を知る喜びを驚きとともに味わうことができていたのだと思う。

▼▼大学では哲学を専攻し、

した。キルケゴールというデスマークの哲学者を研究対象に選んだ。人は救われるのかという直線的な答えを早急に求めていたのが原因かもしれないけれど、読み進めど読み進めど一向に結論が見えてこない。高校生の時のように「分かつたつもり」には、結局なれず仕舞いだった。

▼▼高校では専門用語を断片的・網羅的に学べばよかったのに対して、大学では一冊の本を通して哲学者自身と対峙しなくてはならなかった。しかも、一つの単語を理解するには、本全体を理解しなくてはならない。逆に、一つの単語を理解できた時にはじめて、本全体の意味が了解されてくることもある。「分かる」というのはそれほど単純なものではないというのが、苦しんだ末に得られた答えの一つだといえる。

▼▼それから数十年。苦しめたはずの哲学は、正直なところ、年を追う毎に楽しく不可欠なものになっている。何十年もの時間がかかったけれど、今になってみると、哲学、あるいは文学も含めて、私はその恩恵を受け続けてきた、

のだと振り返ることができ

▼▼プラトン、アウグスティヌス、ドストエフスキー、小林秀雄、内村鑑三、鈴木大拙…。

そういった先哲の本を読んでいると、多くの人が悩みを抱えそして乗り越えようとし、私自身もその一人だという実感を得ることができ。そうした実感は、じかに本と向き合わなければ得られないものだ。解決に即効薬はないし、その解決は何年後になるかわからないけれど、そこに希望はあると思えてくる。

▼▼最近『クリスマス・キャロル』を読んだ。イギリスの文豪ディケンズのとても短い作品だが深く感動した。クリスマス前に読了すると、いかなる場合でも素敵なクリスマスを迎えることができる、と思う。

※『クリスマス・キャロル』
原題『A Christmas Carol』
一八四三年、Charles Dickens



立和名 猛

『FACTFULNESS』 ハンス・ロスリング 他

ファクトフルネスそれは、十の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣。著名な社会学者の著者が、事実を目を向けた、真っ直ぐな世界の見方を説く名著。一見堅く重いテーマも、多彩で分かりやすい資料とユーモアを交えた読みやすい文章で語る。「事実に基づいて世界を見れば、世の中もそれほど悪くないと思えてくる。これからも世界を良くし続けるために私たちに何が出来るかも、そこから見えてくるはずだ」。

LOGICAL II

前回の問題 ある日のこと。一昨日十五歳だった彼女は、来年十八歳になって成人を迎えるという。これが本当なら、彼女の誕生日はいくつ？

答え 十二月三十一日

今回の問題 八枚のコインと一台の天秤がある。重さがわずかに違う一枚のコインを天秤だけを使って見つけ出すには、最低何回天秤を使う？

編集後記

実力査定と進研模試、三年生は大学プレテスト、一・二年生は一日遠行に部活の大会と、慌しかった数週間がようやく終わりまりました。間が空いてしまいました。皆さんお久しぶりです。

さて、時間を大きく遡って十月はじめ、三年生の学年集会では、合格祈願として達磨の目入れが行われました。それから早くも一か月半が経ち、大学入学共通テストまでは残すところ六十日です。もうすでに入試を終えた皆さんは、お疲れ様でした。そして、これから受験を迎える皆さん、後輩たちと先生方は、心から、皆さんの夢への挑戦を応援しています。

ちょうど一週間前、十一月八日には、実に四百四十二年ぶりに、皆既月食と惑星食(今回は天王星食)が同時に起こりました。次は三百二十二年後、土星食と同時に起こるときだとか。ところで、月が血のような赤銅に染まる皆既月食は、古来から多くの文化で忌まわしいものとみなされてきました。しかしある文化圏の神話では、日食や月食の間は、人々が集まり、古い確執を取り除き、怒りを鎮める期間だとされているそうです。忙しく過ぎる日常の中、たまには澄んだ冬夜空に浮かぶ月を眺めてみるのも良さそうですね。

冒頭にもお話ししましたが、今回は新聞発行に一月半の間が開いてしまいました。今後は発行ペースを戻し、また一か月おきに発行していきます。それでは、今回は最後まで読んで下さった皆さん、ありがとうございます。次号もお楽しみに。(下村 将太郎)